

自殺者数

- 全国の自殺者数をみると、新型コロナウイルス感染者が国内で初めて確認された2020年1月以降、6月まで前年を下回っているが、7月から3か月連続で前年を上回っている(9月末の暫定値)。
- 男女別にみると、特に女性の自殺者が著しく増加しており、前年同月比で7月:17.1%増、8月:42.2%増、9月:27.7%増となっている。



出典: 警察庁「令和2年中における自殺の状況」を基に道が作成

經濟・産業

実質経済成長率

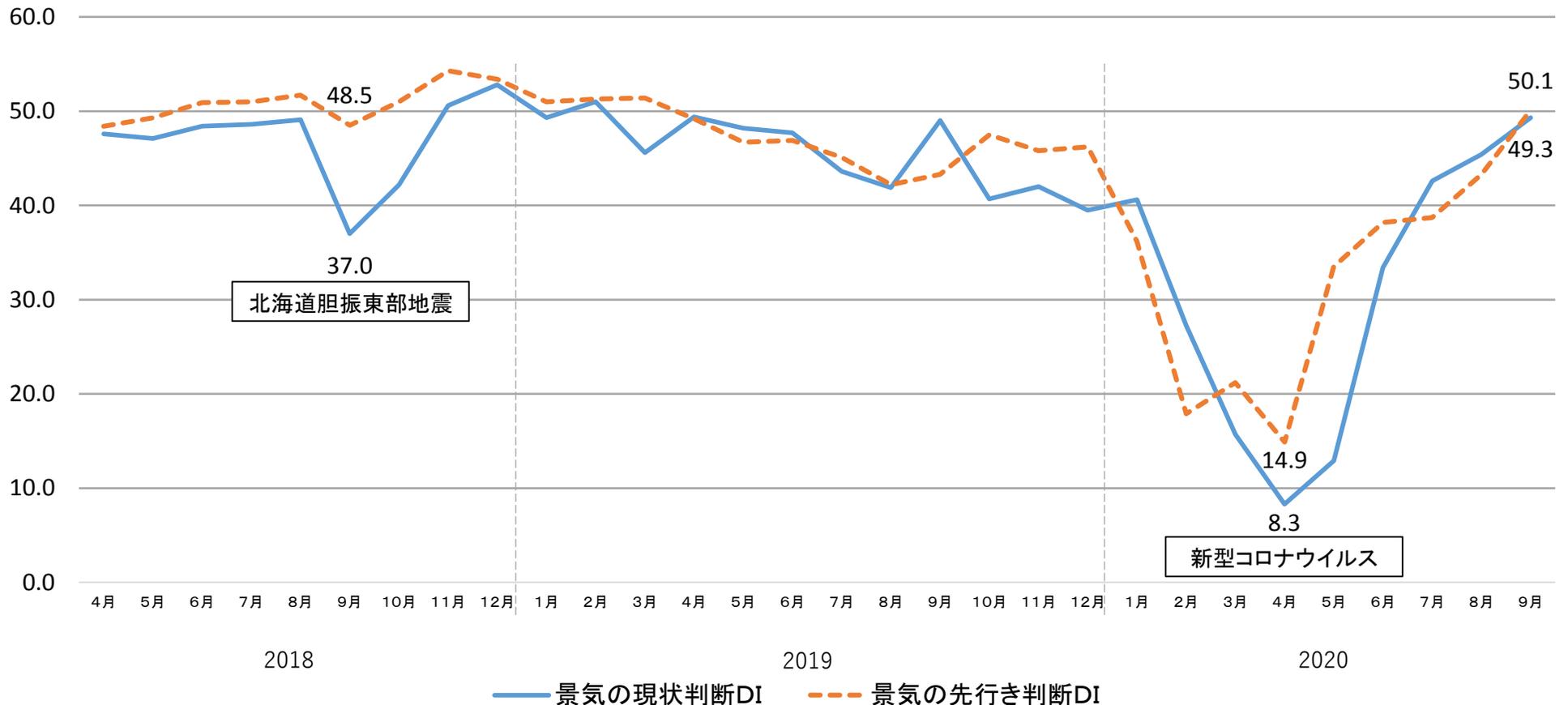
- 北海道の2020年度の実質経済成長率は、個人消費や住宅投資、設備投資、財貨・サービスの移出入などの落ち込みにより、大きく落ち込む見通し(道内金融機関公表)。



景気ウォッチャー調査

- 北海道の景気判断DIは、現状・先行きともに、2020年4月に記録的な水準まで低下したが、緊急事態宣言解除に伴い、5月以降、持ち直しつつある。

景気ウォッチャー調査(北海道) ※季節調整値



企業倒産

- 企業倒産件数(2020年9月)は11件で、前年同月と同数となった。
- 原因別で見ると、販売不振が6件(構成比54.5%)と半数以上を占めた。
- 業種別で見ると、運輸業、サービス業が各3件(各構成比27.3%)となった。



新型コロナウイルス関連倒産

- 新型コロナウイルスの影響を受けた倒産（法的整理又は事業停止、負債1,000万円未満・個人事業者含む）は、全国で666件（2020年10月30日16時現在）。
- 業種別では、飲食店（99件）が最も多く、次いでホテル・旅館（61件）、アパレル小売店（45件）が続く。
- 北海道は32件で、東京都（154件）、大阪府（67件）、神奈川県（33件）に次いで4番目に多い。



失業者・就業者等の推移(道内)

- ・2020年7～9月期の完全失業者数は8万人で、前年同期比で2万人増加したものの、前期比では1万人の減少となっており、2020年7～9月期の就業者数は267万人で、前年同期比で6万人減少したものの、前期比では、5万人の増加となっている。

	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6	2020.7-9		
							前年同期比	前期比	
15歳以上人口(万人)	470	469	469	468	467	466	466	▲ 3	0
うち男性	219	218	218	218	218	217	217	▲ 1	0
うち女性	251	250	250	250	250	249	249	▲ 1	0
完全失業者 (万人)	7	8	6	7	7	9	8	2	▲ 1
うち男性	5	4	3	3	4	5	4	1	▲ 1
うち女性	2	4	3	3	3	4	4	1	0
就業者 (万人)	258	261	273	270	259	262	267	▲ 6	5
うち男性	140	143	149	148	142	144	147	▲ 2	3
うち女性	118	118	124	122	117	118	119	▲ 5	1
非労働力人口 (万人)	204	199	189	191	202	195	192	3	▲ 3
うち男性	74	71	66	67	72	68	66	0	▲ 2
うち女性	130	129	123	124	129	127	126	3	▲ 1
完全失業率 (%)	2.8	3.0	2.1	2.4	2.5	3.3	2.7	+0.6pt	▲0.6pt
うち男性	3.4	2.9	2.0	2.2	2.5	3.5	2.6	+0.6pt	▲0.9pt
うち女性	2.1	3.1	2.2	2.6	2.4	3.1	2.9	+0.7pt	▲0.2pt
就業者率 (%)	55.0	55.7	58.3	57.7	55.4	56.2	57.2	▲1.1pt	+1.0pt
うち男性	64.0	65.6	68.2	67.9	65.1	66.5	67.8	▲0.4pt	+1.3pt
うち女性	47.2	47.1	49.7	48.8	46.9	47.2	48.0	▲1.7pt	+0.8pt

就業者の推移内訳(道内)

- ・休業者は非常事態宣言期間を含む2020年4～6月期に17万人まで増加したが、7～9月期には、7万人まで減少し、前年同期と比べて1万人の増加となっている。

	2019.1-3	2019.4-6	2019.7-9	2019.10-12	2020.1-3	2020.4-6	2020.7-9		
							前年同期比	前期比	
再掲：就業者（万人）	258	261	273	270	259	262	267	▲ 6	5
うち男性	140	143	149	148	142	144	147	▲ 2	3
うち女性	118	118	124	122	117	118	119	▲ 5	1
自営業者（万人）	20	20	19	19	19	22	19	0	▲ 3
うち男性	14	15	15	14	14	17	15	0	▲ 2
うち女性	6	5	4	5	5	5	4	0	▲ 1
正規雇用（万人）	129	133	140	140	131	132	137	▲ 3	5
うち男性	87	89	92	93	88	87	92	0	5
うち女性	41	44	48	47	43	45	45	▲ 3	0
非正規雇用（万人）	91	87	93	91	87	86	88	▲ 5	2
うち男性	27	27	29	27	27	28	27	▲ 2	▲ 1
うち女性	64	60	64	64	60	58	61	▲ 3	3
休業者（万人）	9	5	6	7	9	17	7	1	▲ 10
うち男性	4	2	3	4	4	6	3	0	▲ 3
うち女性	5	3	4	4	5	10	4	0	▲ 6

有効求人倍率

- 有効求人倍率(2020年9月)は、0.95倍で前年同月差で0.31ポイントの減少となり、9か月連続で前年を下回った。



出典:北海道労働局「レイバーレター」を基に道が作成

完全失業者数・完全失業率

- 2020年7～9月期の完全失業者数は、前年同期と比べ、2万人増加している。
- 2020年7～9月期の完全失業率は2.7%で、前年同期と比べ、0.6ポイント上昇となっている。

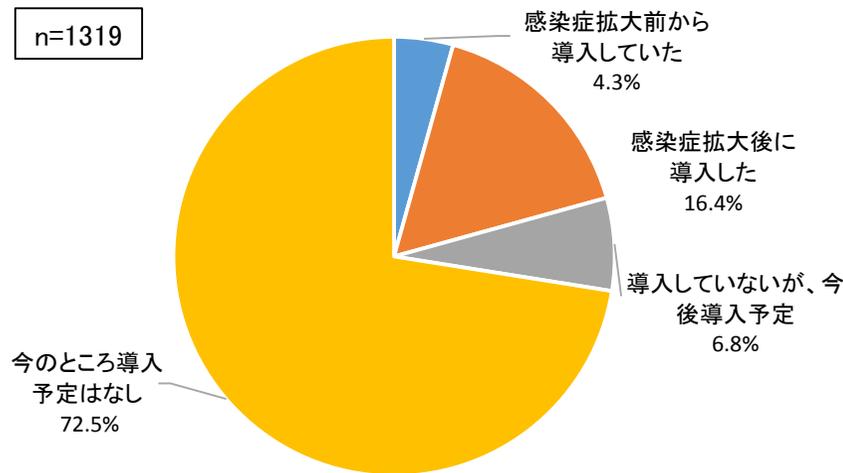


出典：総務省「労働力調査」を基に道が作成

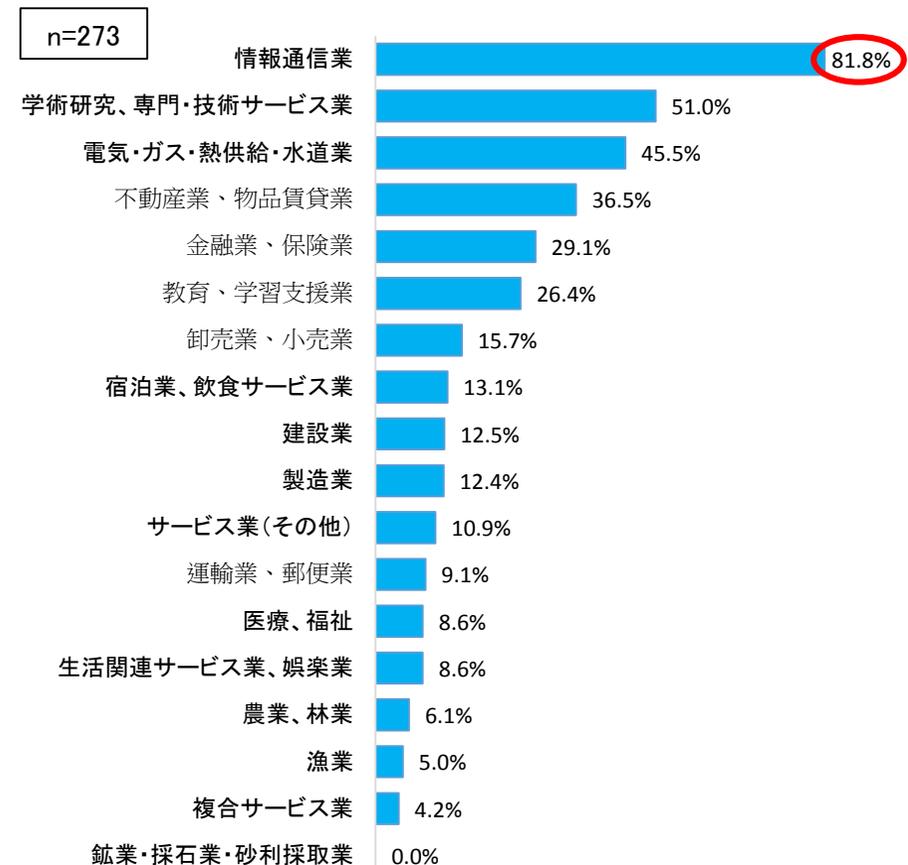
テレワークの普及状況(道内)①

- テレワークの導入状況について、感染症拡大前から導入していた企業は4.3%、感染症拡大後に導入した企業は16.4%で、あわせて20.7%となっている。
- 導入企業を業種別で見ると、情報通信業が81.8%と最も高い。
- 従業員のテレワーク利用割合は、感染症拡大前は5%以下が非常に多かったが、感染症拡大後は51%以上が最も多くなっている。

テレワークの導入状況



業種別導入状況(導入率)



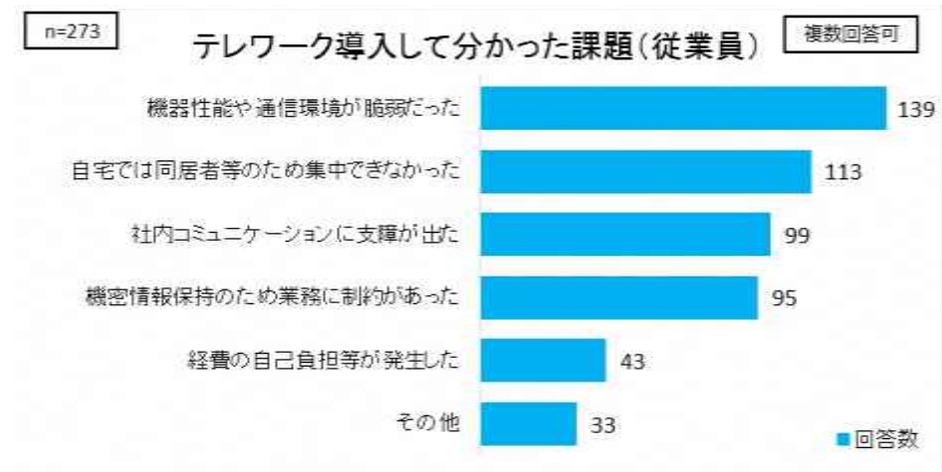
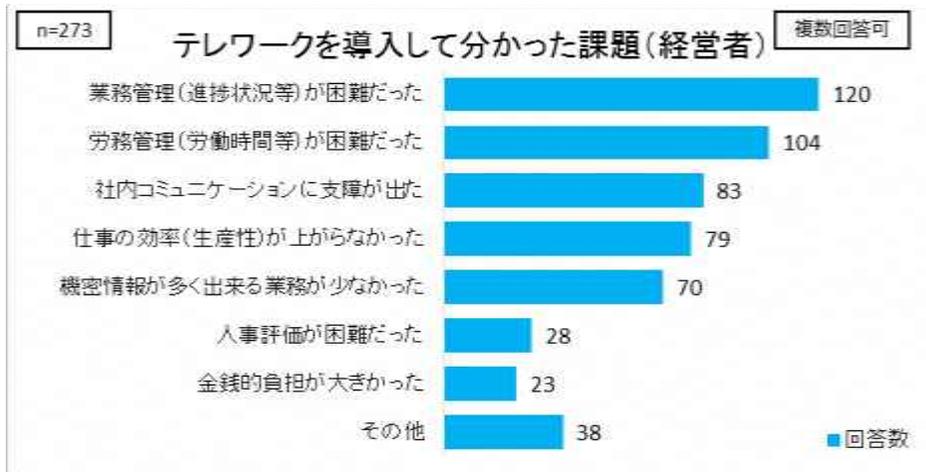
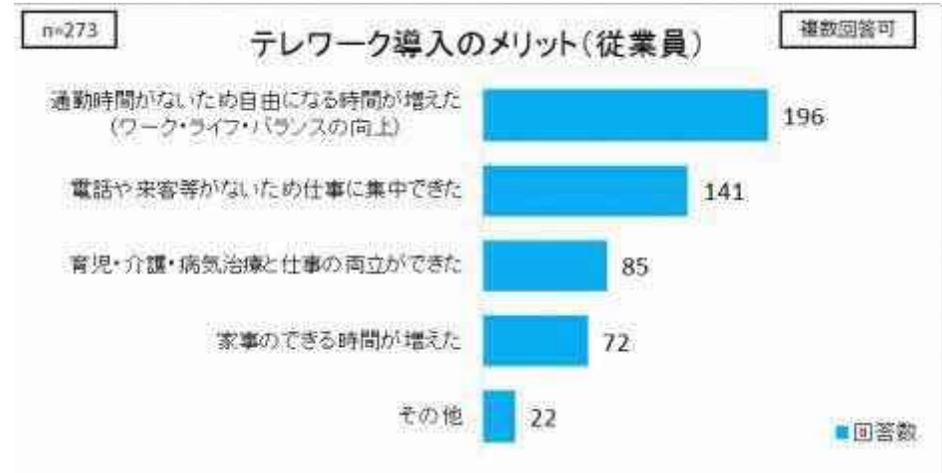
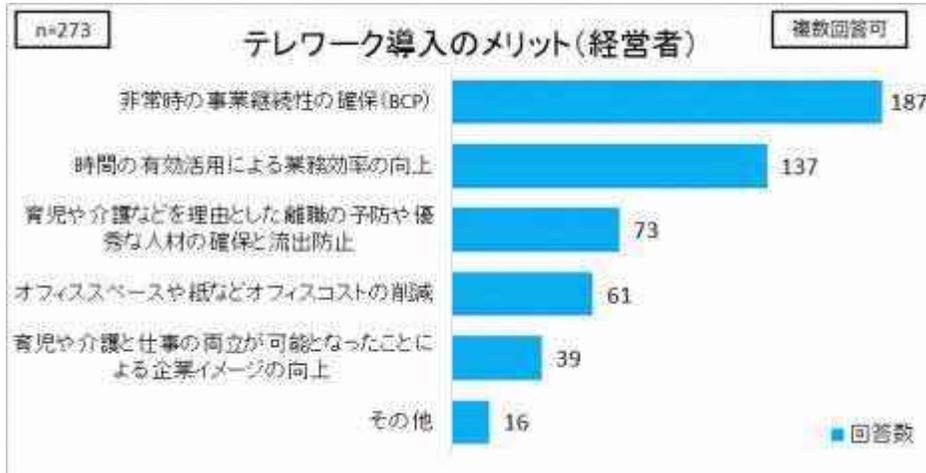
従業員のテレワーク利用割合



出典: 北海道経済部「道内民間企業におけるテレワーク普及実態調査」(2020年8月)

テレワークの普及状況(道内)②

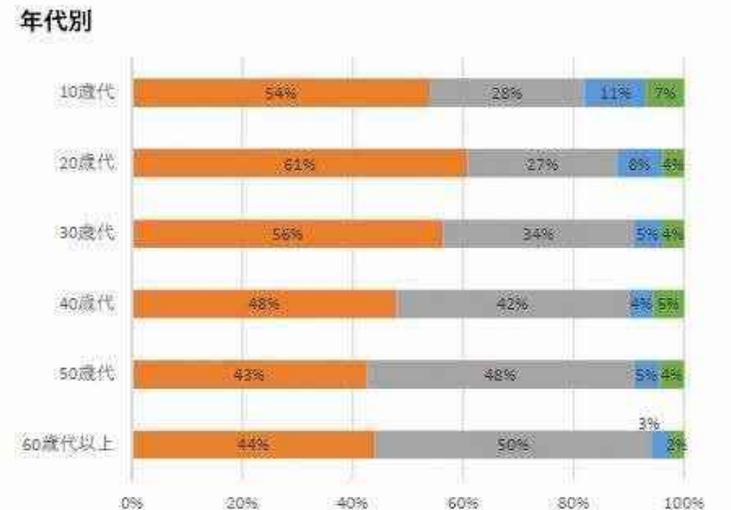
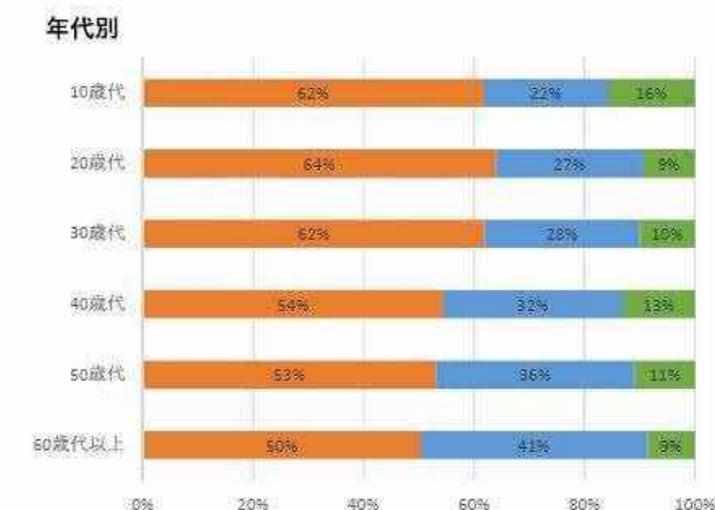
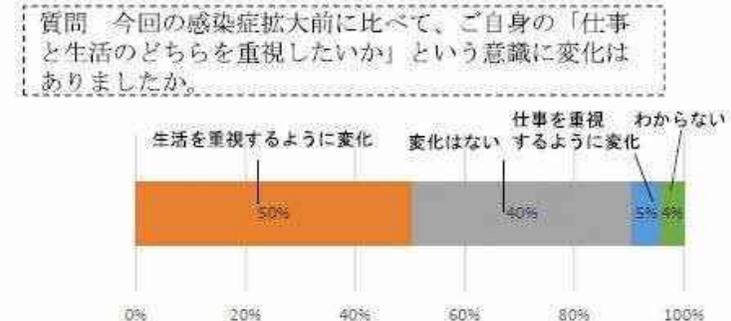
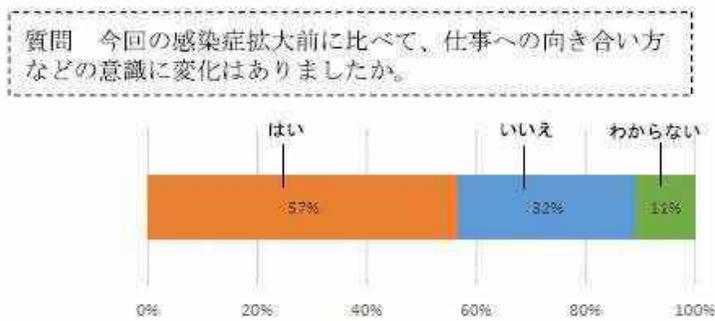
- テレワーク導入のメリットとしては、経営者は「非常時の事業継続性の確保(BCP)、従業員は「通勤時間がないため自由になる時間が増えた(ワーク・ライフ・バランスの向上)」という回答が最も多かった。
- テレワークを導入して分かった課題としては、経営者は「業務管理(進捗状況等)が困難だった」、従業員は「機器性能や通信環境が脆弱だった」という回答が最も多かった。



意識の変化①

- 「仕事への向き合い方などの意識が変化した」との回答が5割超。
- (仕事と比べて)「生活を重視するように変化した」との回答が約5割。

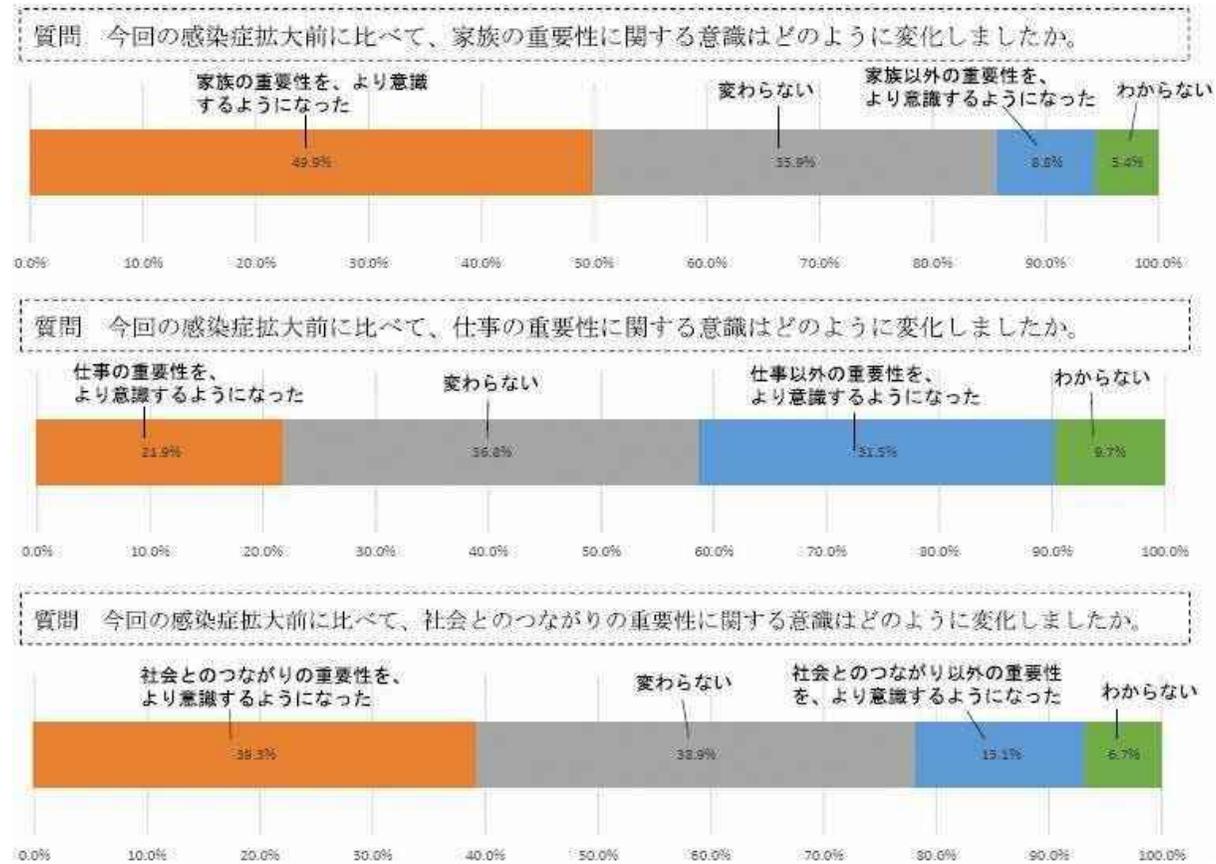
仕事への向き合い方の意識、ワークライフバランス



意識の変化②

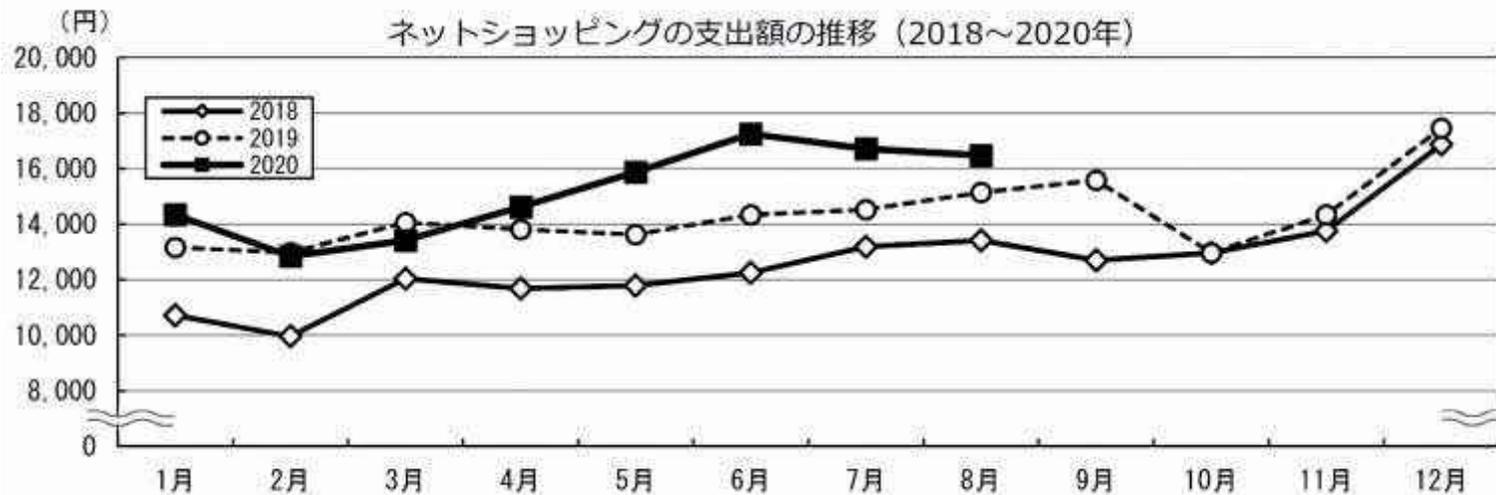
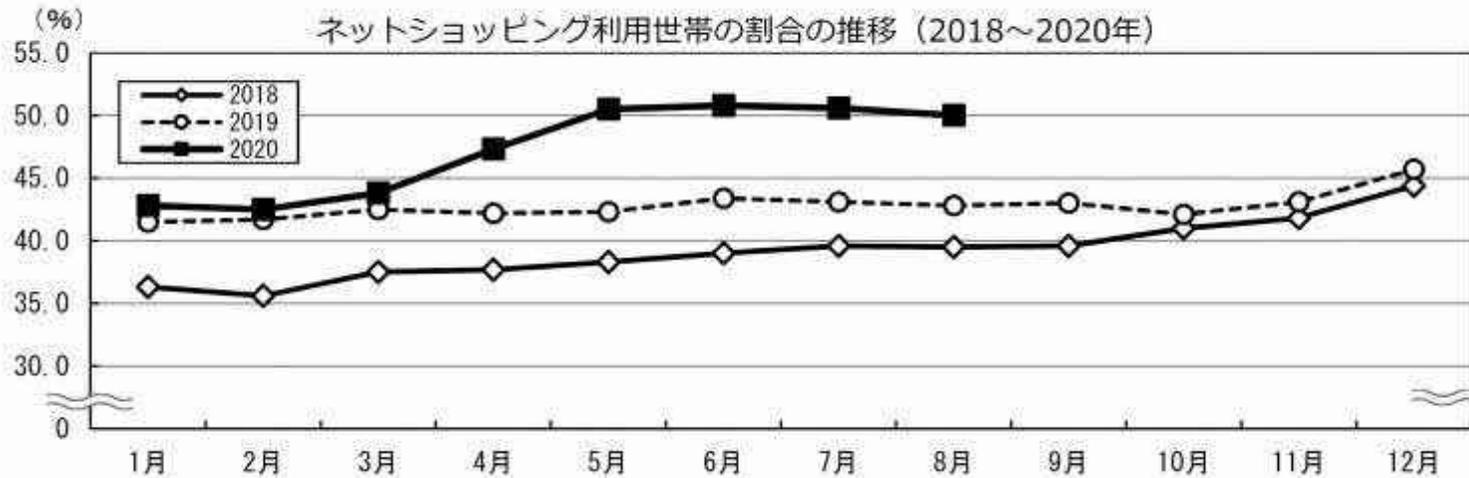
- 「家族の重要性を、より意識するようになった」との回答が約5割。

家族観の変化



ネットショッピングの増加

- ネットショッピング利用世帯の割合、支出金額とも前年を上回る。



出典:総務省「家計消費状況調査」(2020年10月)

決済手段の変化

- 消費増税や「キャッシュレス・ポイント還元事業」を契機として、家庭におけるキャッシュレスの利用頻度は増加。
- 還元事業終了後もキャッシュレス決済を利用したい人は7割超。



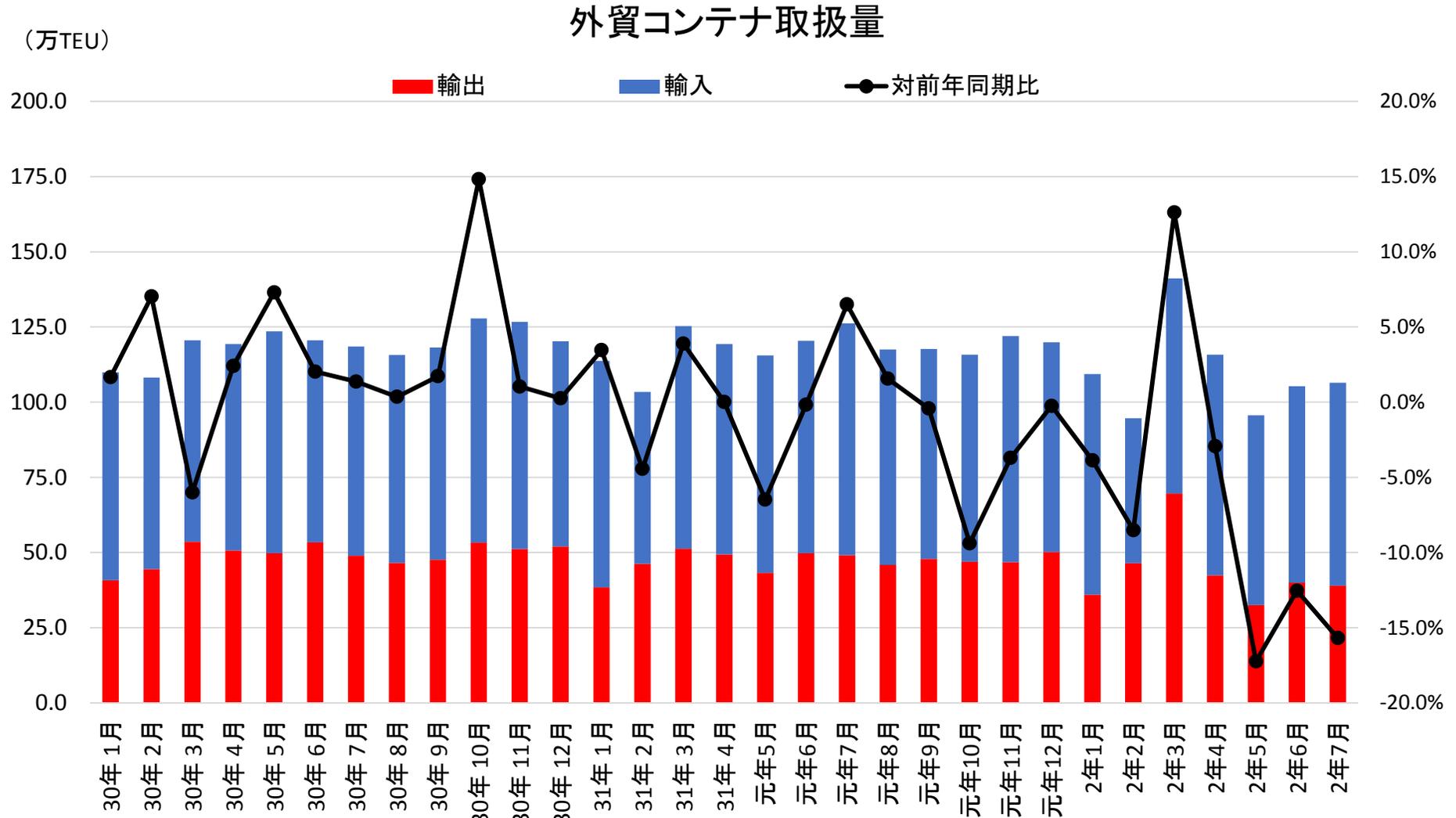
出典：一般社団法人キャッシュレス推進協議会
 (ポイント還元事業補助金事務局)
 「キャッシュレス調査の結果について」
 (2020年6月)



出典：楽天インサイト株式会社
 「キャッシュレス決済に関する調査」
 (2020年7月)

世界的な物流の状況

- 2020年の我が国における外貿コンテナの取扱量は、総じて前年を下回り、特に5月以降は前年を大きく下回る状況。



注: 1TEU=20フィート型コンテナ1個

出典: 国土交通省 外貿コンテナ取扱実績速報

輸出額

- 輸出額(2020年9月)は、161億円で前年同月比22.1%の減少となり、14か月連続で前年を下回った。
- 品目別にみると、動物性油脂、果実・野菜などが増加したものの、船舶、鉄鋼、電気機器などが減少した。



出典: 函館税関「北海道貿易概況」を基に道が作成

道産食品の輸出の状況

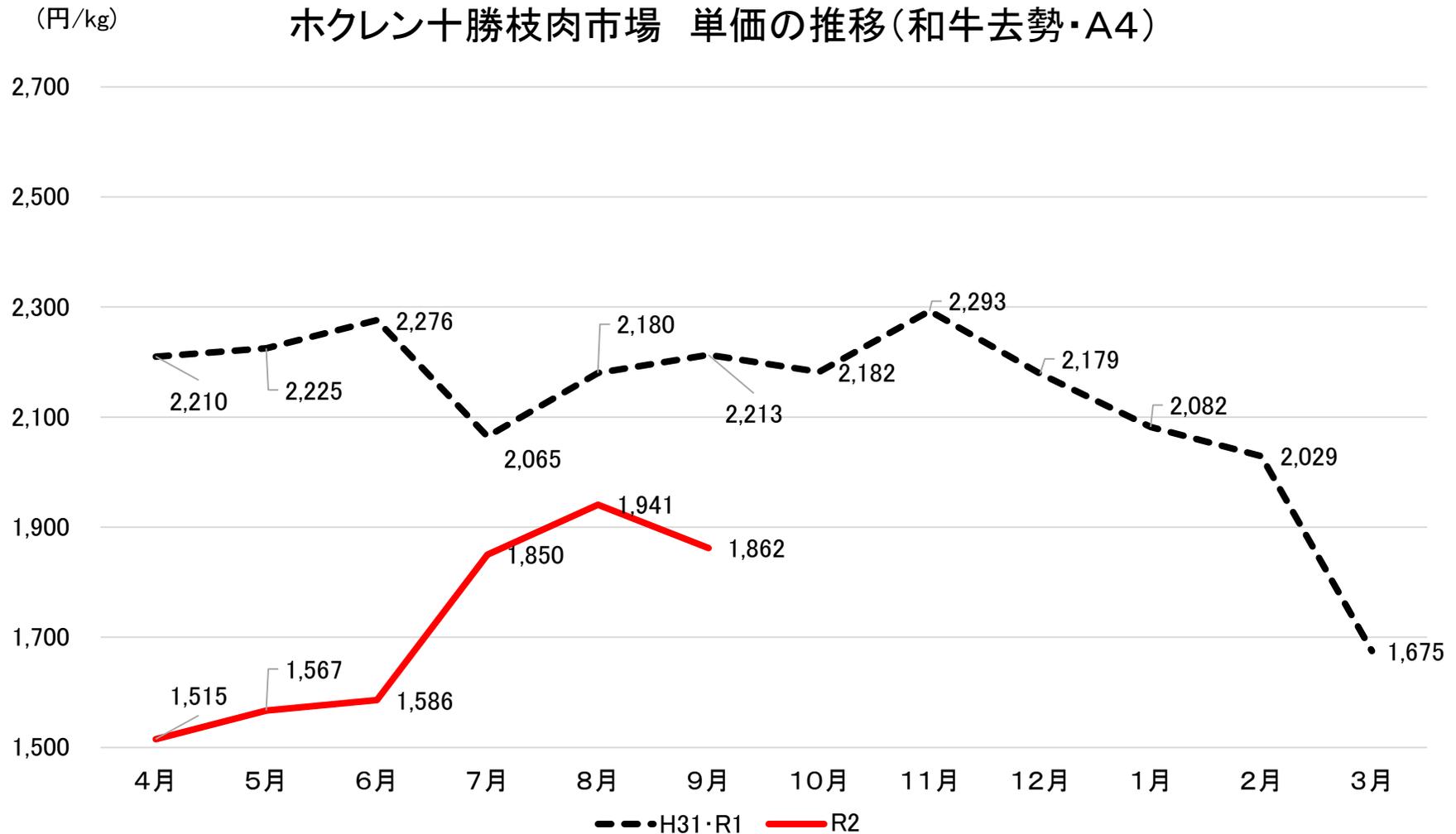
- 2020年上期(1～6月)の道内港からの道産食品の輸出額は241.9億円で、前年同期比33.5億円(△12.2%)の減。
- 水産物・水産加工品では、ホタテガイの単価安により、輸出金額が大きく減少。
- その他加工食品では、百貨店での販売や物産展等の中止により、菓子類の輸出金額が大きく減少。

大品目	2016	2017	2018	2019	2020	2020年 対前年同期
	上期	上期	上期	上期	上期	
農畜産物 農畜産加工品	億円 21.0	億円 14.1	億円 13.8	億円 16.4	億円 19.7	+3.3億円 (+20.0%)
水産物 水産加工品	億円 224.9	億円 240.1	億円 303.5	億円 218.4	億円 185.5	△32.9億円 (△15.1%)
その他 加工食品	億円 31.0	億円 38.7	億円 56.2	億円 40.5	億円 36.7	△3.9億円 (△9.6%)
合計	億円 276.9	億円 293.0	億円 373.5	億円 275.4	億円 241.9	△33.5億円 (△12.2%)

出典:北海道食の輸出拡大戦略<第Ⅱ期>推進状況報告書<2020年上期(1月～6月)>より抜粋

道産牛肉価格の推移

- 新型コロナウイルスの感染拡大と期を同じくして、高級食材の価格が低迷。



出典:ホクレン公表資料を基に道が作成